

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	和歌山市立楠見小学校	梶本 久子
学校所在地		
(〒 640 - 8472) 和歌山県和歌山市大谷349番地の2 tel 073(455)1714 fax 073(455)1578		
担当者名		役職名・担当教科
西原有香莉 / 谷口聖人		教諭
<p>〔学校の概要〕</p> <p>楠見地区には大谷古墳があり、古くから開けた地域である。北は和泉山脈斜面、南は紀ノ川堤防、東はなる滝川、西は南海電車線路沿線に区切られ、楠見地区は、ほぼその中央部に位置している。</p> <p>本校区は、かつては田園風景が広がっていたが、宅地造成が急速に進んでいるため、住宅地へと変貌を続けている。市内各地域からの移住、他府県からの転出入によって、保護者の学校や教育に対する考え方も多様化してきている。地域住民の教育に寄せる関心と期待は大きく、献身的な協力をいただきながら学びを進めることができている。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 5年生 80名	職員 4名	高野町中央公民館 金剛峯寺 教室
実践研究テーマ		
ふるさと和歌山の歴史や文化を大切にしようとする子供の育成		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	和歌山の魅力を再発見！	
〔キーワード〕 世界遺産学習 SDG s 情報活用能力		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県の歴史や文化のすばらしさやよさ、またそれらを守ろうとする人々の思いや願いに気づく。（知識・技能） ・インタビューやICT機器の活用など、調べたいことに応じて調べる方法を適切に選択し、情報を集めたり、発信したりする方法を考えることができる。（思考・判断・表現） ・和歌山県の歴史や文化について学んだことから、地域へのふるさととしての意識を高め、これからの自己の生き方に活かそうとする。（学びに向かう力、人間性） 		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体 40時間 （「和歌山の魅力を知ろう！」 7時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県世界遺産センター・・・次世代育成事業（事前授業と現地学習） ・世界遺産マスター・・・次世代育成事業（現地学習） 		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産について知ろう（1時間＋α）	・次世代育成事業の事前授業で世界遺産についてお話を聞き、和歌山県にある世界遺産についての興味を引き出す。 ・お話の中で気になったことやもっと調べたいことがあった場合、自主学習で深められるよう促すことで、興味を深められるようにする。	（主体的に学習に取り組む態度） ノート 観察
2	地域のよさを知ろう	・地域の施設を見学させていただいたりインタビューしたりする活動をとおして、地域のよさや地域の方々の思いや願いに気づくようにする。また、取材の仕方について知り、情報を集める際の選択肢を広げられるようにする。	（思考力、判断力、表現力） 観察 ノート
3	次世代育成事業に参加し、和歌山県や地域の歴史や文化、自然のよさについて考える	・次世代育成事業に参加し、高野山の自然や文化、歴史について体験的に学ぶようにする。	（主体的に学習に取り組む態度） 観察
4	高野山と地域の歴史や文化、自然を比べ、それぞれの違いやよさについて学んだことをまとめる。	・スライドの枚数を限定しまとめるようにすることで、自分にとって特に心に残ったことの吟味を促し、体験したことをより深く思い返すようにする。	（思考力・判断力・表現力） スライド
5	学んだことを発表し、共有する。	・自分と同じように感じていることや気づいていなかったことに注目するよう促す。 ・自分の伝えたいことが効果的に伝わるよう、相手意識をもって話すよう伝える。	（知識・技能） 発表
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>地域のよさを学んだ後に高野山を訪れる单元構成をしたことで、両地を比べる視点を持ち、それぞれの魅力について考えることができていた。高野山では外国の方が多く訪れていることに気づき、知っている限りの英語で外国の方に話しかけていた。どこから来ているのか尋ね、その答えが世界各地であったことに驚いている様子であった。それほど魅力ある場所が和歌山にあることを知り、「和歌山にもこんな所あったんや。」という言葉が聞けることができた。この言葉からは、生まれ育った和歌山の魅力に改めて気づいていたことが伺える。</p> <p>郷土を継承、発展させていこうという心情を育むことをめざしていく上で、身近な地域以外にも和歌山には魅力がたくさんあることを子供たちが知っていくことは大切である。しかし、今回のように、実際に訪れることは難しい。そこで、各地域の名産品を作っている方や歴史や文化を守っておられる方々と子供たちが会う機会を増やすことは可能であることから、今後はそのような出会いをつくっていくことが必要であると考えます。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産が和歌山にあることを知っている子供も多かったが、子供たちにとって身近ではなかった。しかし、事前授業をしていただいたことから、自分たちが暮らしている和歌山は世界にも誇れる場所であるということを少しずつ感じ始めていた様子であった。また、実際に高野山を訪れ、世界遺産マスターの方々に丁寧に説明をいただいたことで、より高野山のもつ歴史やよさについて実感をもって学ぶことができた。そのような体験や学びの後、高野山についてテレビで放送されていたことがあるとそのことを伝えに来る場面があり、世界遺産や高野山が子供たちにとって身近なものとなり関心が高くなったことが伺える。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>和歌山に住んでいながら、世界遺産に触れる機会をとることが難しい状況にいる子供もいる。そのような子供たちにとっても、自分が知らない和歌山のよさを知ることができることも貴重な機会であった。世界遺産マスターの方に知識を教えていただきながら、和歌山の歴史や文化を子供たち自身で感じる体験的な学びを今後も継続してほしい。</p>			

様式 2

令和4年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

高野山では、グループに分かれ、壇上伽藍を見学後、一橋から弘法大師御廟まで歩いた。各グループに1人ずつ、世界遺産マスターの方がついていただき、案内していただいた。歴史をまだ学んでいない5年生でも聞いたことのある織田信長などのお墓を紹介していただき、そのような歴史的に有名な人物のお墓が和歌山にあることに驚いている様子であった。また、お話いただいたのは歴史についてだけではなく、自生している植物についても教えていただき、顔を近づけてじっくり見たり触って感触を確かめたりしながら、見たことのない植物に興味をよせている子供もいた。

また、道中、海外から訪れている方も多く、知っている英語で積極的に話しかけてコミュニケーションを図ろうとしている子供も見られた。どこから来ているのか聞いてみると、北欧やヨーロッパなど世界のあらゆる国の名前が返答があり、そのことに驚いていた。それほど多くの人を惹きつける場所が和歌山にあることを実感したことから、改めて自分たちの住む和歌山を誇らしく思ったのか、笑顔を見せていた。

「色々な国から来ていたからびっくりした。アメリカから来ていた人もいたよ!」「紅葉していてすごくきれいだった。私あの風景すごく好き。あんな庭があったらいいのに。」「空海さんがずっと生きてるって考えられていて、食事をつくっているのが心に残ったしびっくりした。」「織田信長とか豊臣秀吉のお墓見た!歴史で知ってたけど、和歌山にお墓あるのは知らなかったなあ。」

「お店に高野豆腐を売っていたのを見たよ。高野山で高野豆腐でできたんよなあ。」など、観光、自然、歴史、文化など、子供たちそれぞれの興味に沿った視点から高野山の魅力に気づきを深めていた様子であった。そのような子供たちの様子からも、和歌山の魅力を再発見する、とても貴重な機会となったと感じている。

